

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		日本語教育演習 Seminar on Japanese Language Education				担当者所属 職名・氏名		国際高等教育院 教授 パリハワダ ナ ルチラ	
群	外国語科目群			分野(分類)				使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	木2		配当学年	1回生	対象学生	留学生
[授業の概要・目的]									
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が日本語を通して体験する世界とは何か。本授業では、文学部・文学研究科の学生と共に、「魅力的な日本語」あるいは習得が困難な日本語の学習項目を選定し、それらを日研生の母語と対照しながら、多角的に分析することを通して、外的視点から日本語を考察する。日本人学生・日研究生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。									
[到達目標]									
本授業の到達目標は、 (1) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めること (2) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。									
[授業計画と内容]									
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。 第1回 日本語教育の現状、初級日本語学習者が経験する世界の疑似体験 第2回 様々な教授法・シラバスタイプ 第3回～第5回 「日本語を学ぶきっかけ」となる学習項目（授受表現、擬音語・擬態語、文字体系、位相など）を対象とした分析 第6回～第7回 同上を対象とした教科書分析、指導提案 第8回 グループ別中間発表 第9回～第11回 学習困難な日本語（「は」と「が」の使い分け、主語の省略、配慮表現など）を対象とした誤用分析、用法分析 第12回～第13回 同上を対象とした教科書分析、指導提案 第14回 日本語の特質 第15回 グループ別期末発表									
[履修要件]									
日本語・日本文化研修留学生専用科目									
-----日本語教育演習(2)へ続く↓↓↓									

日本語教育演習(2)

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間・期末発表：各30%

期末レポート：40%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク）
ISBN:4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（上）』（ひつじ書房）
ISBN:4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（下）』（ひつじ書房）
ISBN:4-89476-252-8

【授業外学修（予習・復習）等】

事前準備や授業外の共同学習を積極的行うことが求められる。

【その他（オフィスアワー等）】

木曜日4限（14:30～16:15）をオフィスアワーとする。

研究室：旧石油化学教室本館棟105号室